

別記第1号の2様式

社会福祉法人
櫻灯会

研修カリキュラム表（介護職員初任者研修課程 通学）

事業者名： _____

※実施方法については、「実施要綱」別紙3「各項目の到達目標、評価、内容」を網羅した内容とすること。

研修カリキュラム（実施要綱別紙1）		実施計画	
講義・演習（実習）		カリキュラム名・時間数	実施内容
1 職務の理解	6時間	1 職務の理解	6時間
(1) 多様なサービスの理解		(1) 同左	3
(2) 介護職の仕事内容や働く現場の理解		(2) 同左	3
2 介護における尊厳の保持・自立支援	9時間	2 介護における尊厳の保持・自立支援	9時間
(1) 人権と尊厳を支える介護		(1) 同左	6
(2) 自立に向けた介護		(2) 同左	3
3 介護の基本	6時間	3 介護の基本	6時間
(1) 介護職の役割、専門性と多職種との連携		(1) 同左	3
(2) 介護職の職業倫理		(2) 同左	0.5
(3) 介護における安全の確保とリスクマネジメント		(3) 同左	2
(4) 介護職の安全		(4) 同左	0.5

1 職務の理解	1 職務の理解
(1) 講義及び演習：講義を行い、受講生がグループに分かれて介護保険や保険外サービスについて討議し、身近なサービスについて何があるか発表する。	(1) 講義及び演習：講義を行い、受講生がグループに別れて介護を支えるということはどういうことかについて討議し発表する。
(2) 講義のみ	(2) 講義のみ
2 介護における尊厳の保持・自立支援	2 介護における尊厳の保持・自立支援
(1) 講義及び演習：講義を行い、受講生がグループに別れて尊厳を支えるということはどういうことかについて討議し発表する。	(1) 講義及び演習：講義を行い、受講生がグループに別れて介護職としての社会的責任について検討し発表する。
(2) 講義のみ	(2) 講義のみ
3 介護の基本	3 介護の基本
(1) 講義のみ	(1) 講義のみ
(2) 講義及び演習：講義を行い、受講生がグループに別れて介護職としての社会的責任について検討し発表する。	(2) 講義及び演習：講義を行い、受講生がグループに別れて介護職としての社会的責任について検討し発表する。
(3) 講義のみ	(3) 講義のみ
(4) 講義及び演習：講義を行い、受講生がグループに別れてストレスマネジメントのあり方等について検討し発表する。	(4) 講義及び演習：講義を行い、受講生がグループに別れてストレスマネジメントのあり方等について検討し発表する。

別記第1号の2様式

4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携 9時間	4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携 9時間	4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携
(1) 介護保険制度	(1) 同左 5.5	(1) 講義のみ
(2) 障害者総合支援制度及びその他制度	(2) 同左 2	(2) 講義及び演習:講義を行い、受講生がグループに別れて医療行為の考え方や、一定の要件のもと介護職が行える医療行為を検討し発表する。
(3) 医療との連携とリハビリテーション	(3) 同左 1.5	(3) 講義のみ
5 介護におけるコミュニケーション技術 6時間	5 介護におけるコミュニケーション技術 6時間	5 介護におけるコミュニケーション技術
(1) 介護におけるコミュニケーション	(1) 同左 3	(1) 講義のみ
(2) 介護におけるチームのコミュニケーション	(2) 同左 3	(2) 講義及び演習:講義を行い、受講生がグループに別れて記録の記載方法を体験し、内容・方法を討議し発表する。
6 老化の理解 6時間	6 老化の理解 6時間	6 老化の理解
(1) 老化に伴うところとからだの変化と日常	(1) 同左 3	(1) 講義のみ
(2) 高齢者と健康	(2) 同左 3	(2) 講義及び演習:講義を行い、受講生がグループに別れて疾病の症状や訴え、生活上の留意点などについて討議し発表する。
7 認知症の理解 6時間	7 認知症の理解 6時間	7 認知症の理解
(1) 認知症を取り巻く状況	(1) 同左 1	(1) 講義のみ
(2) 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	(2) 同左 1	(2) 講義のみ
(3) 認知症に伴うところとからだの変化と日常生活	(3) 同左 2	(3) 講義及び演習:講義を行い、受講生がグループに別れて認知症利用者との関わり方について討議し発表する。
(4) 家族への支援	(4) 同左 2	(4) 講義及び演習:講義を行い、受講生がグループに別れて家族のストレスを理解し、家族の心身疲労防止は何かがあるか討議し発表する。

別記第1号の2様式

8 障害の理解	3時間
(1) 障害の基礎的理解	
(2) 障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識	
(3) 家族の心理、かかわり支援の理解	
9 心とからだのしくみと生活支援技術	75時間
ア 基本知識の学習	10~13時間
(1) 介護の基本的な考え方	
(2) 介護に関する心とからだのしくみの基礎的理解	
(3) 介護に関するからだのしくみの基礎的理解	
イ 生活支援技術の講義・演習	50~55時間
(4) 生活と家事	
(5) 快適な居住環境整備と介護	
(6) 整容に関連した心とからだのしくみと自立に向けた介護	
(7) 移動・移乗に関連した心とからだのしくみと自立に向けた介護	
(8) 食事に関連した心とからだのしくみと自立に向けた介護	
(9) 入浴、清潔保持に関連した心とからだのしくみと自立に向けた介護	

8 障害の理解	3時間
(1) 同左	0.5
(2) 同左	2
(3) 同左	0.5
9 心とからだのしくみと生活支援技術	75時間
ア 基本知識の学習	10時間
(1) 同左	4
(2) 同左	3
(3) 同左	3
イ 生活支援技術の講義・演習	54時間
(4) 同左	5
(5) 同左	5
(6) 同左	7
(7) 同左	7
(8) 同左	7
(9) 同左	7

8 障害の理解	
(1) 講義及び演習:講義を行い、受講生がグループに別れて障害者の抱える生活障害について討議し発表する。	
(2) 講義及び演習:講義を行い、受講生がグループに別れて各障害の特徴や支援について討議し発表する。	
(3) 講義のみ	
9 心とからだのしくみと生活支援技術	
ア 基本知識の学習	
(1) 講義のみ	
(2) 講義のみ	
(3) 講義及び演習:講義を行い、受講生がグループに別れてボディメカニクスを駆使した介助技術を実践する。	
イ 生活支援技術の講義・演習	
(4) 講義及び演習:講義を行い、受講生がグループに別れて家事支援のやり方について討議し発表する。	
(5) 講義及び演習:講義を行い、受講生がグループに別れて身体状況に合わせた介護や環境整備について討議し発表する。	
(6) 講義及び演習:講義を行い、受講生が着脱介助の実技演習を行う。	
(7) 講義及び演習:講義を行い、受講生がベッドから車椅子への移乗・施設内、外への移動介助の実技演習を行う。	
(8) 講義及び演習:講義を行い、受講生が食事介助の実技演習を行う。	
(9) 講義及び演習:講義を行い、受講生が全身清拭や部分浴の実技演習を行う。	

別記第1号の2様式

(10) 排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	(10) 同左	7	(10) 講義及び演習:講義を行い、受講生がオムツ体験を行い、パットのあて方、オムツの付け方の実技演習を行う。
(11) 睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	(11) 同左	7	(11) 講義及び演習:講義を行い、受講生がベッドメイキングや体位変換の実技演習を行う。
(12) 死にゆく人に関するところとからだのしくみと終末期介護	(12) 同左	2	(12) 講義のみ
(実習) [※] (50~55時間中12時間以内)	(実習) [※] 時間		(実習) [※]
介護実習 ○時間			
ホームヘルプサービス同行訪問 ○時間			
在宅サービス提供現場見学 ○時間			
ウ 生活支援技術演習 10~12時間	ウ 生活支援技術演習 11時間		ウ 生活支援技術演習
(13) 介護過程の基礎的理解	(13) 同左	6	(13) 講義及び演習:講義を行い、個人ワークにて個別援助計画の作成をし、発表する。
(14) 総合生活支援技術演習	(14) 同左	5	(14) 講義及び演習:講義を行い、本項目(6)~(11)についての再確認を含め、受講生全員に対し実技テストを行う。
10 振り返り 4時間	10 振り返り 4時間		10 振り返り
(1) 振り返り	(1) 同左	3	(1) 講義のみ
(2) 就業への備えと研修修了後における継続的な研修	(2) 同左	1	(2) 講義及び演習:講義を行い、受講生がグループに別れてキャリアパスやOJTなどについて討議し発表する。
追加カリキュラム			
計 (130時間)	計 (130時間)		

※「9ところとからだのしくみと生活支援技術」内で実習を行う場合、12時間以内とする。